

大学院法曹養成研究科

准教授 **若色 敦子**さん
Wakairo Atsuko

●プロフィール

- 1978年 専修大学法学部入学
- 1990年 専修大学法学研究科博士後期課程修了
14年間、九州共立大学で教鞭を取る。
- 2004年 熊本大学法科大学院准教授



経営に役立つ法律の研究を。

渡辺一夫氏に啓発されて

若色さんは子どものころから読書が好きで、一生本を読んでいられる職業に就くのが目標でした。高校3年生の頃、渡辺一夫氏の「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか？」という評論を読み、この問いかけははずっと考え続けなければならないと思いました。同じ頃、政経の授業が面白くなり、法学部を目指すことにしました。専修大学法学部では、ふとした偶然から入った商法演習（加藤勝郎ゼミ）が、実はかなり面白く、毎回ハードな討論を繰り返しているうちに、商法をもっと研究してみたくなりました。また、このゼミに入ったことがきっかけで、関東学生法学連盟（関法連）の法律討論会に参加することになり、3年生の時に質問賞（商法）を、翌4年生では全日本学生法律討論会（全討）で優勝を手に入れます（民法）。すでに大学院進学は決まっていたのですが、本格的に研究者を目指そうと考えたのはこれがきっかけだったのかもしれません。

大学時代も、商法の研究者をめざすようになってからも、先の「寛容は…」については時々考えることがあります。自分の考え方の基本には常にこの問いかけがあるように感じています。

研究を経営に活かす

1990年、同大学法学研究科博士課程を修了し、九州共立大学に就職。その後14年間同大学で教鞭をとり、2004年、熊本大学に赴任しました。現在は主に、法科大学院の会社法の講義と、法学部の商法演習とを担当しています。「熊本大学の学生は勉強熱心ですね。まあ、私が見ている学生は、皆、目標があって学んでいるわけですから、当然なんです」。また、熊本経済同友会の企画で発足した「熊本MLO」にも参加。これは、文系大学教員の研究を企業経営者のマネジメント相談に活かすこと、大学側は経営現場における課題やニーズを現在進行形で研究に生かしていくという協力体制のもと運営されています。若色さんが特に力を注いでいच्छるのが中小会社の会社法です。特に中小会社では、問題を抱えていても内実が表面に出て来ないことが多く、会社法が内紛時にかえって口実として使われ易いといいます。会社法が不当な形で使用されたような様々な場面に機敏に反応していき、内紛を未然に防ぐような法整備の必要性を感じています。

石の上にも三年

1985年頃から約5年間、大学院の講義を受けながら法律事務所で働いていましたが、実務において、持ち前の読解力がとても役立ったそうです。また、「少なくとも社会学者は、専門知識を持つことは当然としても、それ以外のさまざまな分野の本を読んでおいた方がいい。そして、何事に対してもいったん疑ってみることも大切だ」といいます。絵画、文学にも造詣が深く、ご自分でも創作することも。趣味で5年以上エアロビクスや筋トレなどのフィットネスを続けている若色さん。「どんなことでも、3年続けることができればどうにかになります」。慣れ親しんだ福岡から熊本に通う毎日です。



法学部の学生有志とキャンプ旅行